

「寄り道」できる場に

知的障害者の帰宅前支援



カップ麺の作り方を確認する2人(両端)と職員(中央)の浅岡さん

藤沢育成会 (神奈川県)

障害者支援施設などを運営する社会福祉法人藤沢育成会(石川修理 理事長、神奈川県藤沢市)は今年度、昼間働いた知的障害者が帰宅前に立ち寄れる居場所を設けた。「サラリーマンがアフターファイブ」を楽しむのと同じ

ように「がコンセプト。買い物や調理など一人ひとりが望むことに職員が寄り添う。「将来の1人暮らしに備えて包丁の使い方や「お湯に顔を近づけ過ぎないようにね」」。9月末の夕方、仕事を終えたリュウさん(22)、シユウさん(23)が職員の浅岡健さんとカップラーメンの作り方を確認する。ネギとキャベツを切り、湯煎してカップ麺に加える。調理実習の場となったのは生活介護事業所「湘南ジョイフル」。昼間は自宅などから通う障害者が創作活動などをする福祉施設だ。それが終わった午後4時から始まるのが藤沢市の「日中一時支援事業(夕方支援型)」だ。リュウさん、シユウさんはいずれも自宅暮らし。昼間は別の事業所で働くが、藤沢育成会の短期入所の利用で知り合った。意気投合した2人は週に1回程度、夕方の1時間超をこの事業の利用者として湘南ジョイフルで過ごす。それぞれスマートフォンで好きな動画サイトを視聴したり、歌に合わせて一緒に踊ったりすることもある。この事業は自宅で暮らす障害者の親が、仕事などに専念できるように支えるレスパイト(休息)サービスだ。しかし、藤沢育成会はこの事業を障害者本人の視点で捉え直し、「お仕事の後の時間を楽しみませんか?」と呼び掛ける。今年度からの法人の5カ年計画「インクルージョンプラン」にもこの事業を位置付けた。とかく障害者の交友範囲は作業所で出会う

人などに限られがちだ。ひとり違って当然だ。『それぞれのマイライフ』を合言葉に取り組みを進めたい」として「暮らし方は一人いる。(福田敏克)